

閑話 休題

＜カンワキュウダイ＞

閑話休題：無駄話をやめて、話の本題に入ること。ヒマさえあれば無駄話ばかりしている編集室ですが、たまには大切なことも語ります。

今回は、売るほどある！ってぼやいている北国の雪が本当に売れる時代がやってくる!?

悩み多き「克雪」から「利雪」への可能性のお話です。

六回目のお題

雪

がもたらすもの

ありがとう、って言える日は
そう遠くはないかも。

扉を開けると踏み出すのをためらうほど積もった白。雪国の私たちにとってこの雪は「生活を維持するために克服すべきもの」であり、いかにして降り積もった大量の雪からくらしを守るかを常に考えさせられてきました。編集室にも、夏至にはすでに短くなり始める日照時間を想い、うなだれる雪嫌いの編集長がおります。

どこへやったらいいのか困っちゃうほど降る大量の雪を宝の山にする方法はないのか？今回は勝手に雪国を代表して明るい未来を発掘すべく、利用の可能性を探ってみました。以下報告！

可能性1「農作物の出荷調整や保存」

古く日本書紀にも記されているほどの雪国の知恵「氷室」。例えば、秋に収穫した米を保管に最適な温度と湿度に保たれた氷室で保存。すると品質を下げることなく夏まで鮮度を保つことができる。さらに、電気冷房に比べてコストは3分の1以下。北海道ではこうして夏まで保管されたブランド米を関東方面にまで出荷している。「新米と変わらない」と購入者にも好評だとか。保管のみならず、発芽を抑制することで作物の出荷調整をも可能にする。

可能性2「貯雪して冷房」

積もった雪を建物等の地下の貯雪施設に蓄え、夏期に熱交換器を利用して冷房エネルギーとして利用する。世界初の雪冷房マンションは駐車場スペースの雪を貯蔵庫に保

存しておいて、夏の冷房に使用。エアコンと比較するとこれも電気代は3分の1。夏の2か月間使用して、1戸あたりの直接経費はなんとたったの150円。除雪の雪を利用して、雪捨て場の確保に悩む自治体から注目されているとのこと。

可能性3「雪による冷熱エネルギー」

新エネルギー促進法によって雪の冷熱エネルギーは、太陽光、風力に次ぐ、第3の自然エネルギーとして位置付けられているからすごい。電気をつくりだす雪サイホン発電は、小さな温度差で迅速に熱を伝える熱サイホンの原理を応用したもので将来性が高いそう。融雪装置などに組み込めばコストもかからず家庭の冷暖房にも使用できるとか。

以下感想。「困った、困った」では改善も発展も望めないんですね。雪を生活から排除することに終始している視点を変え、能動的に働きかけてそのポテンシャルを引き出す工夫が今後の発展の鍵。これまでダンプカーで排雪していた雪が資源として利用できる可能性が現実にある(法に定まってるくらいですから)。雪国だけが恩恵にあずかれるこの冷たさに潜むクリーンなエネルギーを上手に活用することで、雪に打ち勝つのではなく、雪に勝たせてもらえる可能性があるということです。やがて資源として雪が売買される時代が…なんて密かな期待。まあ雪成金とまでいかずとも、ここでのくらしに付加価値が増えたら、冬の曇天にも少し心が軽くなりますよね。